



2020 年度事業報告

2020 年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって、計画していた事業の中止や縮小を余儀なかった。7 月から協会の全事業をコンパクト化した状態で再開し、強化合宿など強化事業、パラマウントチャレンジカヌーの実施、自治体との連携によるパラマウントチャレンジカヌーサポーター講習会の実施など、対策を講じて実施した。

普及部 パラリンピックサポートセンター助成事業による拠点設備の拡大

【普及活動】

★パラマウントチャレンジカヌーの開催

体験会（選手発掘や室内プール体験会）

霞ヶ浦パラ 2 回、千葉パラ、全国 200M 競漕

★サポーター講習会

宮城県加美町との委託事業

障害者カヌーについて（障害者と介助者の異なる立場の講師 2 人体制での講義とワークショップ）

【広報事業】

広報活動の一環及び寄付の返礼として、スポーツマスク製作。

Facebook ページを充実させ、リニューアルさせた HP の定期的な更新を行い新鮮な情報発信と、選手達に必要な情報をわかりやすく発信できるように努めた。

日本代表選手のメディア露出、事務局のメディア露出、取材対応など、全国各地へ色がるファンつくりのため、多くの選手にご協力いただきました。

【人材育成事業】

第 3 回国内クラス分け養成講習会として、2 年間のおさらいと新しい情報のアップグレードとして、国内クラス分け委員スキルアップ講習会を実施する計画でしたが、新型コロナウイルス感染の影響により 2020 年度も中止としました。（石川県小松市にて）

強化事業内で、コーチを招き選手への指導や選手の引退後のデュアルキャリアとして指導方法を教わる機会を作った。

【選手強化事業】

7 月から 2 週間を 3 回石川県木場潟カヌー競技場で開催し、延期となった世界選手権（ワールドカップパラリンピック最終予選会）に向けたトレーニングを実施した。



- ・第1回強化合宿 木場潟カヌー競技場（石川県小松市）2020年7月2日～7月19日(17泊18日)
- ・第2回強化合宿 木場潟カヌー競技場（石川県小松市）2020年8月22日～9月6日(15泊16日)
- ・パラ内定選手強化合宿 木場潟カヌー競技場（石川県小松市）2020年7月1日～10月31日(122泊123日)
- ・第3回強化合宿 木場潟カヌー競技場（石川県小松市）2020年10月24日～11月8日(15泊16日)
- ・メディカルチェック 強化選手対象
- ・協働コンサルテーション&JPCヒアリング JISS（東京都北区）2021年1月28日～1月28日(0泊1日)
- ・パラカヌー海外派遣選考会 府中湖カヌー競技場（香川県坂出市）2021年3月22日～3月28日(6泊7日)
- ・次世代育成事業 海外派遣選考会 府中湖カヌー競技場（香川県坂出市）2021年3月26日～3月28日(2泊3日)

国内大会では、日本カヌー連盟パラ競技運営との連携を行い、日本カヌー連盟主催大会のパラ選手のエントリー管理やクラス分けについての役割を担い共同主催として大会運営を行いました。レスキュー役員、クラス分け役員、事務局を総務として大会役員を派遣しました。

【体制整備事業】

選手の強化と並行して、指導者やスタッフの専門性を高める JPC 主催の研修に参加していただき全体のレベルアップと意識の向上に努めました。

トレーナー連絡会議、ドクター連絡会議、クラス分け担当会議、コーチ会議、アンチドーピング研修会、栄養サポート連絡会議など

その他、組織基盤整備の為に研修会としてガバナンス研修会や日本パラリンピック委員会加盟団体会議、障がい者スポーツ協議会会議、スポーツ庁との協同コンサルテーションや強化ヒアリングなどに出席し、競技部全体の意識の向上と自己研鑽に取り組みました。

強化指定選手に、メディカルチェック、栄養指導、心理サポートなどを行い心身共にあるべき健康に配慮した強化活動を推進しています。

【人件費】

事務局員 1 名をパラリンピックサポートセンター助成金で継続して常勤雇用、事務補助として週 2 回のパート事務員を継続雇用。



【協賛企業】

スポンサー契約

シルバースポンサー SOMPO ひまわり生命

ブロンズスポンサー 株式会社グローセル

コロナの影響で環境が大きく変わり、会議体もリモートが主流となり、事務局もリモート体制を継続しながらパラリンピックサポートセンターのバックオフィスを利用して、コンパクトな形で積極的に動ける体制になりつつあります。東京 2020 大会 を機に日本では障がい者スポーツに注目が集まり、競技性だけでなくスポーツを通じて共生社会への発展を目標とした社会活動がスポーツ庁の指針となっています。

全国でカヌーを楽しむ人口を増やし、同時に世界へチャレンジする選手を発掘育成すること続けるための協会事業を継続するために、2021 年度も日本障害者カヌー協会の活動を多方面に拡大する方針です。